

美保基地への空中給油・輸送機（KC-46A）の配備に関する住民説明会（概要）

日時：令和2年9月18日（金）19:00～20:40 場所：境夢みなとターミナル
参加人数：69人（境港市民63人・米子市民6人） 報道：5社
出席：中国四国防衛局 企画部長、基地対策室長、美保基地渉外室長、美保防衛事務所長ほか
境港市 市長、副市長、建設部長、都市整備課長、港湾空港対策室長

（主な意見・質疑）

- ①基地に近い中浜地区自治連合会は、幾度も中国四国防衛局に対して、安全性について徹底した追及・議論を交わし、納得し配備に同意している。今の時代は、中浜地区と美保基地がともに発展しようと住民の意識も変わってきた。説明会で住民の声を真摯に受け止め信頼関係がさらに発展することを願っている。（意見）
- ②米国で製作されている KC-46A の機体の安全性の確認について防衛省として何らかの行動をとっているのか。
防衛局：防衛省では、米側やボーイング社と常に連絡を取り合いながら、安全性に関する情報を得ている。
- ③配備によってこの地域の安全性が今以上に懸念される状況になる。
防衛局：KC-46A の任務は、空中給油・輸送であり、いわゆる戦闘機とは異なることから、美保基地の輸送を主体とした基地としての位置づけが変わるものではない。
- ④KC-46A の日々の飛行訓練はどれくらいの頻度で行われるのか。
防衛局：実際に配備されてからの訓練計画は未定。当然、機体が配備されてすぐ実運用とはならず、機体の確認や運用上必要となる試験を1年6カ月程度実施する予定。
- ⑤配備によって、海外から見たとき脅威は増すのではないか。
防衛局：他国は美保基地に KC-46A を配備したと認識をするが、戦闘機を運用する基地としてではなく、輸送を主とした基地の機体の変更として認識すると思われる。
- ⑥新しい機体については、色々と欠陥があると思う。報道された5つが資料には書いてあるが、再度、詳しく説明を。
防衛局：技術的課題と対応について5点説明したが、不安があるという事は理解している。「飛行の安全」については解決済み。「任務の遂行（空中での給油訓練）」に関するものは、これからの改修や、運用上の手順で対応が可能。基地の上空や近くで空中給油の訓練を行うことは全くなく、小牧基地で空中給油機の運用を行っているが事故等なく安全に平成22年から運用している。
- ⑦美保基地に選定された理由を聞かせてほしい。
防衛局：美保基地を選定した理由は、機体を置くスペース、訓練の環境や人員の配置等を総合的に考慮した結果である。

- ⑧美保基地上空を旋回する方向が、左回り・右回りごちゃ混ぜ。空中衝突の危険を懸念している。
美保基地：上空の飛行機の混み合い具合・気象条件・滑走路の状況などを加味した、基地内の管制官の指示により、適切に統制されている。
- ⑨この飛行機の燃料は、1つのタンクに載せるのか、あるいは何十個何百個の小さいタンクを分けて載せるのか。
美保基地：一般論として言えば、航空機の燃料タンクは、機体の構造上、両翼・胴体などに小分けになっている。KC-46Aについても同様の構造である。
- ⑩飛行機は離陸してすぐは燃料が沢山あるためにすぐ着陸できないと聞く。非常事態の場合、着陸するときにはどのような手順がとってあるのか。
美保基地：着陸するときの重量に制限があることは、官民間問わずどの機体についても同じ。通常、航空自衛隊で航空機を運用する際には、用務先、訓練内容や任務内容等を勘案し必要な燃料を積載しており、常に満載して飛行するという事はなく、必要な燃料を積載している。緊急事態の際は、定められた基準になるまで、空中で燃料を減らした後に着陸する必要がある。
- ⑪家の真上を飛ばれたらテレビも聞こえないくらいうるさい。C-2は結構大きい音。T-400は減るがKC-46Aが6機も増えるということは、今より飛行回数は増える。住宅に防音構造を施す補助等、騒音対策をする予定があるのか。
防衛局：KC-46Aの運用頻度は、これから運用の計画を作成するため、現時点では確たることは申し上げられない。KC-767が所在する小牧基地（愛知県）は、4機で月に約100回。1機あたり1日1回程度の頻度。住宅の防音は、防音の区域の中にある住宅を対象に、防音対策費用の助成を行っている。
美保基地：T-400は部隊として浜松に移動する予定である。なお、移動後も外来機として美保基地に飛来することはある。
- ⑫KC-46Aは、戦闘機ではないという意味で輸送機。輸送機ならば、緊急時、災害時に人も載せられるのか。
美保基地：空中給油・輸送機は、他の飛行機への給油や人員・貨物の運搬が出来る機体。当然、災害派遣など、C-2と同じように活動することが出来ると考えている。
- ⑬KC-46Aに使用しているエンジンのメーカーと型式は。騒音の大部分はエンジンで発生する。
防衛局：プラット&ホイットニー社製のPW4062というエンジンになる。
- ⑭導入後、日々の訓練飛行はどれくらいの頻度で行うのか。
防衛局：現時点では機体が配備されていないため、明確には答えられないが、航続距離の短いT-400等と比べれば、離着陸の回数は少なくなると予想は出来る。
- ⑮美保基地の性格は戦闘になくはならない基地として見られる。空中給油機の任務は非常に危ない仕事。本当に安全が保証されるのか懸念はしている。（意見）

⑩KC-46A は緊急発進する飛行機であり、T-400 の浜松基地への移転は、この支障になるためと考える。

美保基地：T-400 の移動は、浜松基地にある教育集団での飛行教育を一本化し、統一した基準で連続した訓練を行うため。

⑪夕日ヶ丘地区は燃油タンクに隣接している。これがさらに整備されると危険が増してくる。「万が一」があっては困るが、地元には補償を求める声が多い。

防衛局：補償については、交付金制度や補助金の制度があるが、それ以上のご要望としてしっかりと受け止めたい。

⑫騒音の程度は、ボーイング767とほぼ同等の静粛性と記載されているが、全体的なやかましさの数値はどれくらい上がっているのか。KC-46A の配備に伴ってどれくらい上がる見込みか。

防衛局：音の全体的なうるさを測る手法で WECPNL という「うるささ指数」を通常出している。現況では「うるささ指数・W 値」が、ここ数年で大きく増えているということはなく、ほぼ同じような数値。細かいデータは、中国四国防衛局のホームページで公表しているので参照いただきたい。